

らいぶ **創** づくりえいた- No.78
LIVE 倉 REATOR 2016年9月
 研究広報誌



教育研究発表会 2016 のお知らせ

👉 お申し込みはこちらから。

CONTENTS

- 教育研究発表会のお知らせ…P. 1
- 発表会授業 P R…P. 2～P. 6
- ICT 活用授業研究会ご案内…P. 6

ごあいさつ

まだまだ残暑が厳しい毎日ですが、学校の方は、いよいよ子どもたちが大きく成長する姿を見せてくれる2学期が始まりました。秋の深まりとともに、子どもたちの学びもさらなる深まりを創り出していきたいところです。

ところで、子どもたちが大きく成長するときとは、どんな時ときでしょうか。それは、与えられた「発問」ではなく、自分なりの切実な課題意識に裏打ちされた「問い」を生み出すことができたときであり、さらにいえば、自前の言葉で紡ぎ出された「問い」をもち、対象や仲間に関動的に関わって、自分を太らせていく学びができたときです。それは、表層的な活発さだけではなく、仲間とともに、対象の世界に深くつながり、参画していく「深い学び」(Deep Active Learning)なのです。2学期には、こうした学びこそ、子どもたちとともに創り出すことが求められているのではないのでしょうか。

私たちは、このような子どもたちへの思いから、昨年度より「問い続け、学び続ける子どもたち」をテーマに掲げて、今年度は新たに「子どもの言葉でつくる授業」を副題に設定して、教育研究発表会を開催することにいたしました。

この新たなテーマの下、公開授業を行うとともに、昨年度に引き続き、教育心理学研究の立場から学びの創造に取り組まれている鹿毛雅治先生(慶應義塾大学教授)をお迎えし、参観授業を元にした本校職員とのパネルディスカッションを予定しています。

お忙しい折ではありますが、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

和歌山大学教育学部附属小学校長 船越 勝

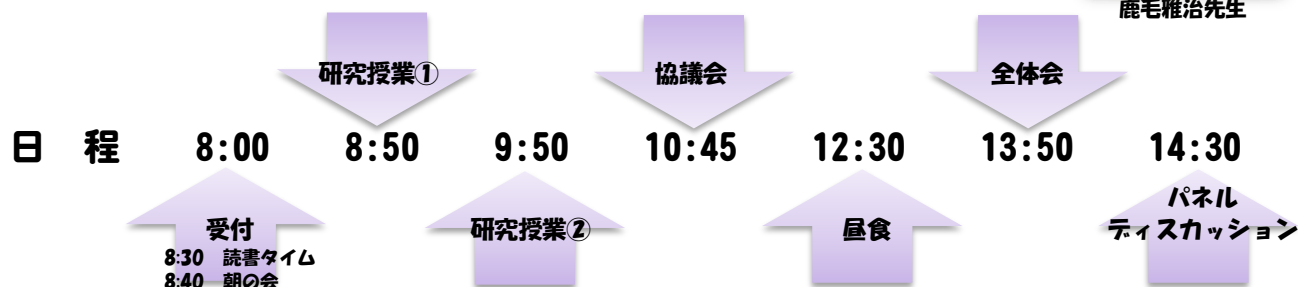
**テーマ 「問い続け、学び続ける子どもたち」
 ～子どもの言葉でつくる授業～**

日時 平成 28 年 10 月 29 日 (土) 8:30～16:10

会場 和歌山大学教育学部附属小学校



鹿毛雅治先生



講師 鹿毛雅治 先生 (慶應義塾大学教授)

後援 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 和歌山県連合小学校校長会

研究発表会授業PR-1

学級 授業者	教科 単元	授業PR
2 A 中村正雄	国語科 あなたならどう音読 する？ ～なりきり2 A 音読げきだん～ 「お手紙」	「お手紙」をはじめとして、「がまくんとかえるくんシリーズ」を読み、音読劇をすることをめあてとして学習を展開します。登場人物の様子や気持ちが伝わる音読にしようと考えながらお話を読み、考えたことを“マイ台本”に書きためていきます。 子どもたちが、がまくんとかえるくんになりきって、2人の行動や会話を楽しみながら読むことができると考えています。
4 B 中岡正年	国語科 映像と言葉で 伝えよう！ ～みんなに届け！「わか かやまポンチ」CM～ 「アップとルーズで 伝える」 『クラブ活動リーフ レット』を作ろう」	単元の初めと終わりにクラスで取り組んできた「わかやまポンチ」のCM作りを行います。映像作品を作ることで、子どもたちが本教材を読もうとする意識を高めると考えています。 『クラブ活動リーフレット』を作ろう」を参考にして、「わかやまポンチ」の魅力について説明する文章を互いに交流する場面が本時となります。自分の考えを読む人に伝えるには、適切な写真やイラストを選択し、文章と組み合わせることが重要です。また、相手にわかりやすく説明するには、文章の構成も同じく重要なことを、体験と文章から理解できる学びにしたいと思います。
5 A 湯浅明菜	国語科 5 Aセレクト！ 〇〇人物伝 ～「イイね！」を伝 える番組作り～ 「百年後のふるさと を守る」	「こんなすごい人がいたんだ！」「この発見、感動を伝える番組を作りたい！」そんな思いをもって学習に臨む5 Aの子どもたちです。自分が心動かされること、共感するところを「イイね！」として伝えながら学習している5 A。番組作りを通して、伝えたいことの中心や伝わりやすい文章構成を考えます。本単元では、伝記に描かれている人物の「イイね！」を伝えます。共通教材として「百年後のふるさとを守る」で和歌山にゆかりのある浜口儀兵衛や、自分が興味のある人物についても並行して読み進めます。功績や言葉から、人物の考え方、生き方に触れられるようにします。
5 B 中山和幸	社会科 わたしたちの生活と 工業 ～世界一の鉄づくりを 目指す新日鐵住金～	『新日鐵住金』の鉄づくりの調査・見学を通して、わかった事実をもとに、日本の工業生産システムや働いている人の工夫や努力、自分たちのくらしと工業の関係などについて考えていきます。その中で、身の回りにある工業製品への見方・考え方が変わったり、深まったりする学習になるようにしたいと考えています。また、子どもの思考の流れを大切にしながら、単元を通して、子どもに付けたい力を育むための学習過程にこだわった授業づくりにチャレンジしていますので、そちらの視点でもご覧いただければと思います。
6 C 梶本久子	社会科 わたしたちの願いと 政治のはたらき ～未来のまちづくり～	本時では、5グループの中から出た和歌山県の政策の提案について話し合います。子どもたちが問題に対して様々な角度から考え、意見交換する中で、多くの方から得た断片的な知識を、概念的・統括的な知識に高めるための練り合いの場になればいいと思います。今まさに、まちづくりに関わる方々と出会い交流する中で、和歌山県の現状の厳しさを受け止め、未来のまちづくりに向かって熱心に調べています。その提案を行政や地域に発信するため、「使命感」に駆られている30人の子どもたち。「和歌山県の未来のまちづくりに対する思いは誰にも負けない」と本気になって追究しています。その熱意あふれる話し合いを見ていただきたいです。

研究発表会授業PR-2

学級 授業者	教科 単 元	授業PR
1 A 吉久寛郎	算数科 たすのかな ひくのかな	1年生の子どもたちが演算決定するにあたり大切にしていることは、増減を表す言葉です。先に書かれた数字が小さければたし算だというように、数字の並びだけで演算決定する子もいます。そこで、言葉や数字だけでなく、このお話がどんな場面かを具体的に想像させることで、お話（問題）の世界をイメージすることを大切にしていきます。また、子どもたちがイメージした問題場面を絵や図に表したり、ブロックを使って操作したりする活動に取り組んでいきます。本時は、子どもたちが絵や図や具体物を用いながら、互いの考えを解釈し合い、共有できる学習をめざしたいと考えています。
4 A 糸我直人	算数科 面積	これまで面積の指導をしてきた中で、公式を一生懸命に覚えようとする子どもたちが多く、たて×横という公式を覚えて長方形の面積を求められるようになりました。しかし、5年生になると覚える公式も多く、公式を忘れた子どもが台形の面積を求められなかったり、平行四辺形の高さを斜辺と間違えたりする子どもが多くいました。そこで、4年生から「公式化」に重きを置くのではなく、単位面積のいくつ分で求積するという考えを大切にしたい単元構成を考えました。方眼上に斜めに置いた正方形や長方形の求積について、子どもたちが考える姿を見てください。
5 C 小谷祐二郎	算数科 割合	割合にはどうして苦手意識がつきまとうのでしょうか。1つには、何を基準量とみればいいのか分からないことが挙げられます。しかし「Aの2倍がBで、Bの3倍はC」という問題場面は3年生で出合っています。日常生活にもこんな場面があります。「そうじは終わりましたか?」「あと少しです。」というあと少しは、その日のそうじの仕事量を基準とした場合の残りの仕事量を割合で表した言葉です。 このように、潜在的に難しいと思っていた割合の見方がこれまでの学習や日常生活にもあったという経験をするのが、子どもたちの苦手意識を払拭できるのではないかと考えました。研究会当日は、既習の内容を割合の見方で捉え直す授業を提案します。
1 C 上田 恵	生活科 石	身近なようで、最近、子どもたちの遊びの中にあまり登場しなくなった「石」。 よく見ると、その形、大きさ、色、模様、手触り、重さなどはたいへん多様です。歴史をひもとけば、和歌山城の大きな石垣、紀伊風土記の丘の古墳などの遺跡、石の建造物、石器など、いろんな場面に登場します。子どもたちの大好きな化石も石です。子どもたちの目線で石にせまると、どんな魅力を見つけ出すのでしょうか。 子どもたちが石のとりこになるような授業にしたいです。
2 B 横瀬文子	生活科 あったかい! あんしん! ふぞくの町	日々、様々な事件が起きる中で、「ぼくたちの町は大丈夫?」と不安気な子どもたちに、町の人と関わっていくことで、「ぼくたちの町は安心だ!」と思えることができる学習にしたいです。 学校周辺の「あったかい」ところを探しに出かけます。こども110番の家「きしゅうくんの家」の方や、地域の人々にインタビューをして、より多くの人との関係をつくっていきます。探検を通した気付きを表現し合うことで、自分の気付きをより深く自覚したり、友だちの表現から新たに気付いたりします。そして、学校周辺の町に親しみをもったり、毎日の登下校に安心したりできるような実践にしていきます。

研究発表会授業PR-3

学級 授業者	教科 単 元	授業PR
3C 馬場敦義	理科 電気で明かりを つけよう！ ～くらべることでさ ぐっていこう～	子どもたちにとっては、電気の学習は難しいものです。身近にありながらも、電気を目で見たり、触れて感じたりすることができないからでしょう。本単元は、「エネルギー」についての基本的な見方や考え方を培うこととなります。興味・関心をもって追究する活動を通し、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方、電気を通す物と通さない物を比較する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、電気の回路についての見方や考え方を身につけるようにしていきます。
4C 中西 大	理科 ものの温度と体積 ～ボトルの栓が外れた 事件の謎を追え！～	冷蔵庫に入れていたアルミボトルを取り出し、栓をしておきました。すると、いつの間にか栓が外れています。これは大事件！子どもたちは、栓が外れた事件の謎を追うため、イメージ図を用いた予想から実証実験を行い、科学的な見方・考え方を駆使します。イメージ図を用いた考えの交流場面では、子どもたちがもつイメージを最大限に生かすため、空気・水・金属（アルミニウム）を擬人化し、ストーリー性をもたせます。そして、それぞれの予想から様々に実証実験を行い、多くの結果を持ち寄って考察を行う中で、ものの温度と体積の関係やその特徴に気づけるような学習を展開したいと思います。
6A 久保文人	理科 発電と電気の利用 ～エネルギーを知る・ 変える・感じる～	6Aのテーマは「環境」です。子どもたちが、“未来の地球を守るのは自分たち”の思いをもてることを願っています。これまでは地球温暖化について、理科の「燃焼」「植物の体とつくり」と関わりながら学習を進めてきました。本単元では「電気」を柱に、エネルギーについて深めていきます。電気、光、熱、音、運動など、私たちは様々なエネルギーを利用して生活していますが、それらに目を向ける機会は多くありません。発電、蓄電、電気の変換について追及していくことで、身の回りのエネルギーに目を向けられる子どもを育みたいと考えています。キーワードは「知る・変える・感じる」。手で、耳で、目でエネルギーを感じます。
1B 居澤結美	音楽科 いろいろなおとを たのしもう ～シンコペーテッド クロック～	「シンコペーテッド クロック」は音色とリズムが特徴的です。耳を澄ませていろいろな音を聴き、その楽器の音色の特徴やリズムを口ずさんだり、身体表現をしたりします。さらにそれを言語化（身体表現からうまれる言葉を音楽の言葉にすること）することで楽曲全体の気分を楽しむことをねらいとします。本題材を学ぶことで様々な楽器の音色に着目し、いろいろな音を楽しむための視点をもち、音楽の仕組みにたくさん気付くことができます。本時の学びが、“初めての楽器を使った音楽づくり”“自分たちの思いを歌詞にのせる”“歌唱と器楽の組合せ”など、これからの音楽をより楽しめるようになることを願っています。
5C 内垣美佳	音楽科 曲想を生かして合奏 しよう ～表現の工夫が いっぱい 「マンボ No.5」～	クラスみんなで「マンボ No.5」を合奏します。リズムカルでくり返しが多いこの曲をどのように演奏するのか、表現の工夫を考えて演奏することで、思いや意図をもって表現する力を育てていきます。つつい教師主導になりがちな器楽の授業ですが、子ども主体で授業を展開していけるようにしたいと考えています。まずは、自分のパートの役割を意識できるようにします。そして、音だけでなく、言葉をつかって考えた表現の工夫を仲間に伝え、クラス全体で演奏に対する思いや意図を共有していく過程を大切にします。思いや意図を込めた「マンボ No.5」を楽しく演奏する子どもたちの姿をめざします。

研究発表会授業PR-4

学級 授業者	教科 単 元	授業PR
3 B 田中千映	道徳科 友だちといっしょに 心晴れ晴れ！ ～がたる岩～	2学期は「友だちといっしょに心晴れ晴れ！」をテーマに道徳の時間と各教科等を関わらせて進めています。一人一人が、学期末に「こんなわたし（ぼく）になっていたらいいな！」という姿をイメージし、それに向かって生き方のヒントを探していきます。本時は「がたる岩」の教材を通し、寛大な心で相手のことを理解しようとする事のよさを考え、話し合いたいと思います。子どもたちが自分の問題としてとらえ、進んで考え、友だちと考えを交流し、自分の生活につなげようとする姿をめざします。
3 A 西原有香莉	図画工作科 発見！ かくれモンスター!!	映画やゲームなどで登場するモンスター。その存在は、近頃特に注目され、子どもだけでなく大人までも夢中にしています。身の回りに住んでいるかもしれない自分だけが発見した「モンスター」をつくり出す活動を通して、子どもたちの造形的なイメージをより豊かにすると考えます。子どもたちから生み出されたイメージに対して柔軟に応答可能な素材とし、粘土を使用します。粘土による素材体験を十分にを行い、その体験がモンスターを造形する際の表現活動に生かせる学習をめざします。
2 C 渡辺 圭	体育科 みななもの！ しゅぎょうでござる ～つくって遊ぼう 2 C さなだ道場～	今年の和歌山と言え…やっぱり真田幸村、真田十勇士！そして附属小のある「奥山」は真田家に仕えた紀州忍者の修行の場でもあったとか…。 本実践では子どもたちが忍者になって「しゅぎょう」をします。「しゅぎょう」は大きく前半後半の二つに分かれています。前半は全員が同じ課題意識をもって取り組みます。潜入⇒戦い⇒ボス退治の3つのステージで動きを確認しながら力いっぱい「しゅぎょう」をします。後半は自分や友だちとつくった道場で場や動きの工夫を出し合って、楽しさを広げ「しゅぎょう」をしていきます。「しゅぎょう」に励む2 C にんじゃをぜひご覧ください！
6 B 則藤一起	体育科 アルティメット ～ ^び ^び っとパスで ゴールをねらえ！～	体育が苦手…そんな6 B の子どもたちと思いきり体を動かしたい。アルティメットはディスクを飛ばすこと自体がとてもおもしろく、またディスクを持っているときと持っていないときの動きが分かりやすく、子どもたちにとって適した教材だと考えました。苦手な子にも分かりやすい学習にするため“自分がディスクを持ったらどうするか”“味方が持ったら何をやるか”を中心に進めていきます。投げ方については、どういう投げ方でどう曲がるのかを問い、考えていきます。そして単元の終末には、アルティメットの醍醐味であるロングスローを積極的にねらう中で、思いきり投げ、思いきり走り、「体育が大好きだ」そんな子どもたちにしたいと思います。
1 2 F 宮脇 隼	複式 国語科 「会話文」の 名探偵になろう ～物語の中にある 自分と出会う～ 1年生「くじらぐも」 2年生「お手紙」	子どもたちは、「音読×名探偵」をキーワードに学習を進めてきました。テキストからの細かな情報や、友だちや自分の考えの小さな変化に気づいてほしいという願いを込めて「名探偵」としています。そして、物語の世界を豊かに感じ、それを表現するための「音読」について、クラス全体で考えています。 1年生は、まるで自分が物語の中にいるような気分で動作化を楽しみ、【音読が動作化に与える影響】【動作化から生まれる音読の気付き】を大切に、学習を進めたいと考えています。2年生は、がまくんとかえるくんになりきって音読をします。小グループで台本を作り、互いの立場に立って考える学習を展開します。作者が意図的に作り出している【会話文の連続と非連続】を手掛かりにし、二人の心情をとらえ、音読として表現していきます。

研究発表会授業PR-5

学級 授業者	教科 単 元	授業PR
34F 川村繁博	複式 算数科 3年生「分数」 4年生「分数」	子どもたちの中には、「2mの1/3は何メートル？」の問いに対して「1/3m」と答えてしまう子どもが多くいます。それは「基準となる1」の意識が子どもたちの中に根付いていないのではないかと考えています。 具体的な単位量（1mや1L等）を基とした量分数は「基準となる1」が初めから規定されています。よって、分割分数は基準の1をそろえて規定しなければなりません。しかし、その違いを子どもたちが意識することは少ないのではないのでしょうか。また、これらと比較する場面もあまりありません。本単元では、これらの分数を並行して扱い、つなげて比較することや絵図に表し視覚化して捉えることで意味理解を深めることができると考えています。
56F 矢出大介	複式 総合的な学習の時間 紀州材のことを 知りつくそう ～紀州材元気 プロジェクト～	和歌山県にある人工林の大半は樹齢60年の時期を迎え、利用可能な資源となっていますが、十分利用されていません。紀州材を取り巻く環境を考えることを入り口として学びを進めます。紀州材に思いをもって仕事をしている多様な人と出会い、その人たちの思いに寄り添うことや、学んだことをそれぞれのグループに分かれて映像にまとめる学習を通し、思考力・判断力・表現力と学びに向かう力・人間性を高める学びにします。課題解決のために算数・国語・社会・道徳との関連を大切にして学びます。また、複式学級の子どもたちが異学年で学ぶことの価値を感じることを願っています。

ICT活用授業研究会のご案内

近畿放送教育研究大会、近畿学校視聴覚教育研究大会として、平成28年11月25日(金)に開催を予定しています。以下の3本の公開授業を中心に計画しております。詳細・お申し込みは、順次本校ホームページで公開いたしますので、ご覧ください。下のQRコードよりアクセスできます。

- 2年生・渡辺学級(教科の情報化)
- 3年生・馬場学級(情報活用能力)
- 4年生・中西学級(情報モラル)



From Editors

16年目を迎えた『LIVE創REATOR』には、「生き生きと本物を創り出すひと」という意味が込められています。私たちが創り出す本校の取り組みをご紹介します。

今年度の発行は、今回で最終となりますが、本校の行事・授業・提案・取り組みにつきましては、ホームページでの発信を充実しております。日々の実践を考える情報源としていただければ幸いです。ぜひ、ホームページをご覧ください。

編集委員：中西、久保、横瀬、中岡

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1

TEL 073-422-6105

FAX 073-436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>



本校HP



【巻末写真：6月11日・公開授業研究会の様子 ～グループでの話し合い～】